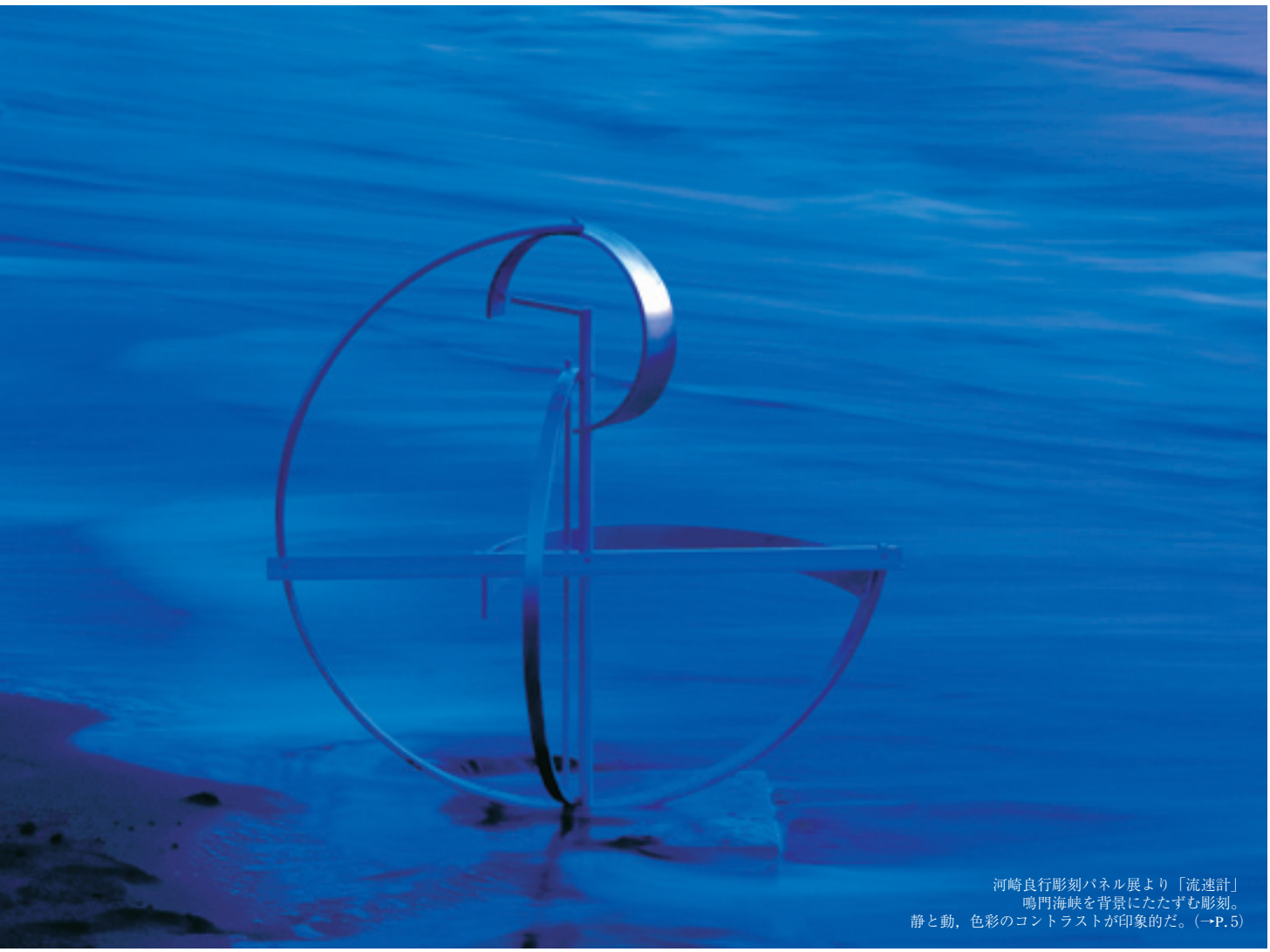
徳島大学渭水会々報

第37号

発行/徳島大学渭水会
徳島大学総合科学部内



河崎良行彫刻パネル展より「流速計」
鳴門海峡を背景にたたずむ彫刻。
静と動，色彩のコントラストが印象的だ。(→P.5)

Topics…… 2
大宅壮一ノンフィクション賞を受賞して
城戸　久枝

ご挨拶…… 3
渭水会会長　井内　孝幸

総合科学部では今(19)…… 4
ポストモダン時代における
フィロソフィー・エシックス
総合科学部教授　石田三千雄

— 海峡の風景 —　彫刻展について…… 5
河崎　良行

総合科学部卒業生の就職…… 9

第22回国民文化祭とくしま2007
野外彫刻展に参加して……11
武田亜希子

世界自然遺産　知床の山に登る……12
中島　　護

“知の創造”を目指して……13
宮田　幸奈

平成20年度部会報告……14
高校・特別支援学校部会　毛利　久康
幼稚園部会　堀江眞理子

渭水会の改組と助成事業について……19
渭水会理事長　濱田　治良

徳大ニュース……25

編集後記……26

Topics

大宅壮一ノンフィクション賞を受賞して

城戸　久枝

４月８日。大宅壮一ノンフィクション賞の発表当日，出版社の方たちと一緒に，イタリアンレストランで連絡を待っていた。

７時前，編集者の携帯が鳴る。会場は一瞬静まり返った。

「受賞です！」

その声と同時に会場は一気に盛り上がる。

「おめでとう，おめでとう」

握手を求める手が次々に私の前に伸びてきた。一人一人の手を握り，頭を下げる。

体の震えが止まらなかった。

ノンフィクションライターなら誰もが目指すだろうこの賞を，まさか自分が，しかも単行本デビュー作で受賞できるなど，夢にも思わなかった。喜びに湧く会場で,私はしばらく放心状態だった。

父のことを書きたいと思ったのは，21歳，大学４年の夏だった。九月からの中国への留学を控えて，実家に戻り準備を進めていた私のところに，父が大きな段ボールを抱えてやってきた。それは日記や帰国に関する資料，手紙，写真など父に関わる資料の数々だった。その資料を手に取っていると，ある手紙に私は釘付けになった。中国語で書かれたその手紙は，父の書いたものに間違いなかった。しかし,最後に書かれたサインは「孫玉福」という中国名が書かれている。父が「孫玉福」として過ごした半生を，娘である私が書き残さなければならない,使命感にも似た気持ちが漲ってきた。

満州国軍の祖父と祖母の長男として，旧満州に生まれた父は，1945年，ソ連軍侵攻の混乱の中で家族とはぐれ，中国人の養母に育てられた，いわゆる中国残留孤児である。日本人だからという理由で大学受験に失敗し，職も失くし，中国での未来に絶望した父は，日本赤十字社に何百通という手紙を送り続け，ほぼ独力で身元を探し出した。そして，1970年，文化大革命真っ只中の中国から，28歳の時に帰国を果たした。

その父の半生を，私は大学に入るまで知ろうとはしてこなかった。だからこそ,「孫玉福」という名の手紙を見たときに衝撃を受けたのだ。

それから十年の歳月を経て，父の半生をまとめた『あの戦争から遠く離れて　私につながる歴史をたどる旅』を出版することができた。出来上がった本を父に送ると,「よく書けている。感動した。誇りに思うぞ」という短いメールが来た。

父からのこの言葉をもらって，ようやく私の十年の長い旅は終わったような気がした。そんなとき，大宅賞最終選考に残ったという連絡を受け取った。

受賞の喜びを父に伝えようと電話をかける。「もしもし…」。すると何も言う前に「おめでとう！」と父は言った。私の声だけで受賞がわかったのだという。同時に電話の向こうから家族の拍手と歓声が聞こえてきた。

６月23日に，帝国ホテルで行われた大宅賞の贈呈式には，愛媛から両親も上京してきてくれた。ステージに立ち，受賞の言葉を述べながら，両親のほうに目を向ける。穏やかな表情で私を見つめる両親がいた。好き勝手に生きてきた自分が，生まれて初めて親孝行ができたような気がした。

平成12年人間社会学科
日本・東洋地域研究コース卒

あの戦争から遠く離れて
著　者：城戸　久枝
出版社：情報センター出版局
定　価：1,600円＋税
発行日：2007年９月10日

渭水会会長
井内　孝幸

ご挨拶

渭水会会員の皆さんには，平素から渭水会のためご支援ご協力を戴きありがとうございます。

先日の５月31日に行われた平成20年度の徳島大学渭水会の総会の役員改選で再度会長に任命され，引き続き会長の責務を果たすことになりました，身にあまる光栄とは存じますが，その責務の重大性を痛感しています。

渭水会の会長を引き受けて10年が過ぎました，その間会員の皆さんのご協力と吉森・濱田理事長を始め理事の先生方，事務局の近藤さんの指導により大過なく努めさせて戴きました，心よりお礼申し上げます。

会員の方々から総合科学部の改組はどうなっているのかとよく聞かれていましたが６月18日の徳島新聞を読んでご承知のように文部科学省に提出，現在総合科学部は更なる理念の追求と実現のために，学部と大学院の充実化を図って，改組と博士課程後期の設置に向けて着々と準備を進めております。

計画によると文理融合型の「社会創生学科」を新設し,環境共生,公共政策,地域創生の3コースを設ける。社会創生学科の新設に伴い，現行の人間社会学科は人間文化学科に，自然システム学科は総合理数学科に改称することになっています。

徳島大学が大学院の研究教育重視の中，工学部との統合話など改組問題で，波に乗り遅れていた総合科学部でした。そこで修士課程しかない現在の人間・自然環境研究科を廃止し，博士課程に改組することは総合科学部やOBにとって大きな願いでした。文部科学省への要求が認められることを切望しています。

平成16年には国立大学が法人化され，組織的に，全く新しい国立大学法人徳島大学が生まれました。

自主・自立の観点から徳島大学でも，教育・研究のみならず，毎年予算が減少している経営面も含めた更なる努力が求められています。

時の立つのは早いもので，来年平成21年度は徳島大学創立60周年を迎えることになります。この記念すべき年に全学部共同で記念事業を行うことになっていますご支援をお願い致します。

総合科学部が発足して,20余年が過ぎ,校舎もすばらしく改築されつつあり，卒業生も五千人余りとなり，渭水会の状況も大きく変わって参りました。

現状に即するように組織変えが検討されて来ました，その結果今年より支部を廃止し，渭水会の組織を一元化して運営することになりました。

この改組に伴い新しく渭水会助成事業を始めることになりましたので有効に利用して戴きたいと思います。

これからも渭水会が活発に活動できるよう改定していきたいと思います，どんどんご意見を出していただき運営していきたいと思います。

再任に当たり，皆さん方のご協力とご指導をお願いして挨拶とします。

（昭和28年中学校課程数学教室卒）

総合科学部では

今 (19)

ポストモダン時代における フィロソフィー・エシックス

総合科学部教授 石　田　三千雄

昨今は，無差別テロと見紛う秋葉原の通り魔事件や子どもによる親殺しのような凄惨な事件がしばしば生じ，またそれにも一部は絡んでいますが，派遣労働に代表される，非正規労働の拡大による格差社会が生み出され，殺伐とした社会になっています。若者が未来を描けない社会になっています。また他方では地球環境の温暖化が問題となり，洞爺湖サミットでは温室効果ガスの50％削減が問題となりました。しかし，この目標の実現は実際はほとんど不可能であると言ってよいでしょう。われわれが今のような豊かな生活を続け，生長を望む限り，地球環境はこれからも破壊され続けていくでしょう（発展途上国の貧困問題等は今は措いておきます)。また９・11以後，対テロ戦争が世界に組み込まれました。これらの現象は，人間の理性によって，地上により良き社会を実現するという近代の理念の帰結であると言えるでしょう。より良き社会は,逆説的に,環境が破壊され，テロが蔓延し，先の見えない社会として実現されているのです。今や近代の合理性が失効し,疑われ,信用を失う時代になっています。この状況はモダンの終焉,ポストモダンと言われます。

大学はかつては自由な学問の府，教養を積む場でした。今や大学から自由な雰囲気が失われつつあります。大学も今日の社会と同じように余裕をなくしつつあります。ポストモダンの時代は，合理化が盲目的に進行する時代でもあります。それはあらゆる組織が官僚化することでもあります。大量の書類作成が省庁のみならず，大学や義務教育の現場で行われています。合理性が効率性と解釈され，数値で示される目標をただひたすら追求することが自己目的となっています。いつのまにか何のための書類作りか定かではなくなり，書類の空欄を埋める作業が大きな業務となっています。教育改革の帰結が教育機関の官僚化となるという皮肉な状況が生まれています。効率性を追求しても誰も幸福にならないばかりか，われわれはますます迷宮に迷い込んでいくのです。合理化は学問の世界にも入り込んで，特に伝統的な人文系諸科学を危機的状況に追い込んでいます。例えば，哲学や倫理学は社会に役立たない学問として,そのポストは全国の大学で消滅しつつあります。

フッサール相互主観性の研究
著　者：石田三千雄
出版社：ナカニシヤ出版
定　価：4,600円＋税
発行日：2007年９月

現代社会は，個人が孤立し，他者とのつながりが稀薄になった社会だと言われます。しかし，現実世界では誰もロビンソン・クルーソーになることはできません。昨年の９月に私は『フッサール相互主観性の研究』（ナカニシヤ出版）を出しました。この本は私と他者の間に成り立つ関係，相互主観性を論じたものです。この書で私は，現代の哲学者であるフッサールの相互主観性の思想を特に「感情移入」という観点から論じました。感情移入はもともとリップスに由来する心理学や美学に関わる概念ですが，フッサールにも批判的に受容されました。これは一般に言われるところの共感の中に位置づけることができます。他者経験，客観的世界が成り立つメカニズム，心身問題，社会性の根拠づけ，異文化理解などを私はそこで論じました。人間の心は閉じられたカプセルのようなものではありません。それは他者と世界に開かれています。私は他者の立場になって考えることもあるでしょうし，他者の立場から私自身を見ることもあるでしょう。他者はひそかに私のなかに入り込んでいます。しかし共感することは必ずしも同意することではありません。他なるものを理解し，相互に承認し合うことは，学問の世界においても文化においても重要なことです。数値で表されるものしか信用できない現代人は貧しい感受性しかもてなくなっています。複雑で多様な現実を理解するには自然科学的見方だけではなく，人文科学的な見方が必要です。まさに総合的な見方こそがいま求められています。ポストモダン時代に，知や教養をわれわれはどう再構築できるでしょうか。大学にその力があるか否かが問われています。

― 海峡の風景 ―
彫刻展について

河崎　良行

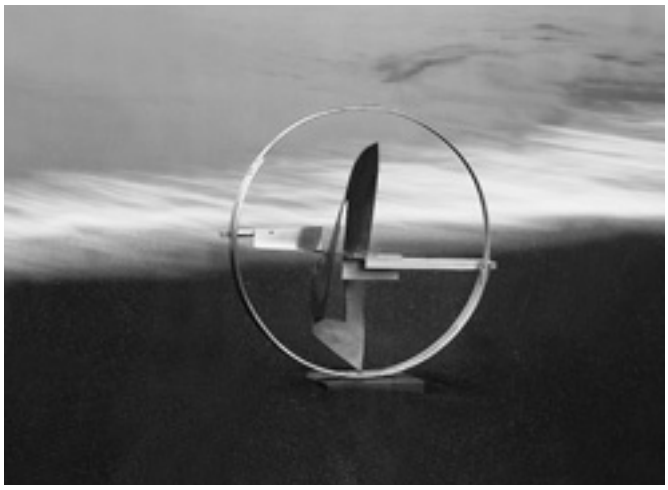
2004年，鳴門海峡を望む鳴門ガレの森美術館での個展をきっかけに，海峡の事象に関心を持ち，私のこれまでの「環境と造形」といったテーマの中で環境芸術への視点がより意識されるようになった。

今年の夏，神戸・淡路・鳴門自動車道全通10周年記念イベントとして彫刻展の開催が企画され，タイトルを―海峡の風景―とした。

この彫刻展についての意図とか所感を少しのべたいと思う。

第一会場としてのエディ（大鳴門橋架橋記念館）は，多くの資料や設備の中で彫刻を展示するといった，これまでに経験のない展覧会となった。展示の意図としては，まず会場に立体的造形を加えることにより，何らかの芸術的雰囲気をつくり出すための役割を果たすことであった。それと同時に彫刻のもつ独自の空間も示さなければならない。彫刻のもつ空間とは，実用性や科学的なものとは無関係であり，言葉の説明もなくただ見ることのみを対象とした空間で，まさに「視覚のための存在」であるといえる。しかし，このような空間が視覚に与える印象はきわめて強いものがあるとされていることから，それに接する機会が多ければ，アート的空間への関心を高める手がかりになるのではないかと考えた。

会期は，2008年７月19日～８月31日であったが，この夏休み時期は子供連れの家族や若者のグループの入館者が多いとのことで，鳴門観光や見学をしながら，海峡をモチーフとした作品とその表現形式などにも興味を持ってもらえれば幸いである。特に抽象彫刻に触れる機会の少ない小中学生には，美術館や画廊などと目的を異にした場所で，楽しみながらの直感による体験は，今後彼らの表現活動に何らかの形で浸透し生かされる時もあるのでは……と普及の思いも込められている。



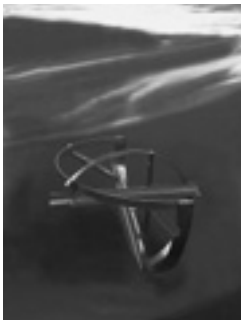
また第二会場，渦の道ギャラリーでは，作品のパネルを２ヶ所に計14点を展示している。こちらもエディと同じく渦の道にアート的雰囲気をつくり鳴門の景観をより印象的なものにしたいとの思いから実施した。

このパネルはカメラマンとのコラボによるもので，広大な自然を背景に深いブルーと海流，日の出と大橋，白い月と海原など自然環境と作品が一体となり，現実には見られないイリュージョンとして神秘的な情景をつくり出すことができたのではないかと思っている。

自然を彫刻と対比させて見ると，彫刻がアイ・ストップの役割を果たし，自然をより深く観照することになる。また自然と一体となることによって見る人に親しみを感じさせ，とかく理解し難いと言われてきた抽象彫刻が比較的スムーズに受け入れられる場合がある。このパネルは平面上での思考実験だが，そういったことも意図している。

「渦の道ギャラリー」での彫刻パネル展は2009年３月31日まで開催。

昭和33年中学校課程美術教室卒



河崎良行彫刻パネル展

日時■平成20年７月19日㈯～平成21年３月31日㈫
- ●９：00～18：00（10月～２月は９：00～17：00）入場は閉館30分前まで。
- ●休館日　12月の第２月曜日。また，暴風雨により臨時閉館する場合があります。

会場■渦の道ギャラリー（第１・第２休憩所）
- ●鳴門市鳴門町土佐泊浦字福池65　電話 088－683－6262

内容■海峡の風景シリーズ彫刻作品のパネル写真14点を掲示します。

入場は渦の道のチケットが必要です。　●一般 500円　　学生 400円　　児童 250円

総合科学部卒業生の就職

Ⅰ 近年の就職率の推移

右の表は，平成６年度から平成19年度までの総合科学部卒業生の就職率の推移を示しました。

17年度にやや低い就職率を示しましたが18・19年度は，6.5・7.0ポイント増で，再び高い就職率を示しました。特に女子学生の就職率が7.9ポイント増と大幅な上昇を示しています。

平成19年度の卒業生は264人で，就職希望者は181人（進学希望者49人，その他34人）でした。

［就職率の推移］

年度	計	男	女
6	73.8	76.7	71.2
7	76.1	72.8	78.5
8	87.5	84.6	89.5
9	91.7	88.6	91.7
10	89.6	85.9	91.7
11	89.9	92.9	88.4
12	91.8	89.1	93.5
13	90.4	84.2	93.9
14	86.1	81.1	88.4
15	88.0	86.8	88.6
16	91.4	89.5	92.3
17	89.8	89.7	89.9
18	96.3	92.3	97.8
19	96.8	95.2	97.8

Ⅱ 業種別および県内・県外別就職状況

次の図表に平成19年度の卒業生の業種別と県内・県外別の就職状況を示しました。

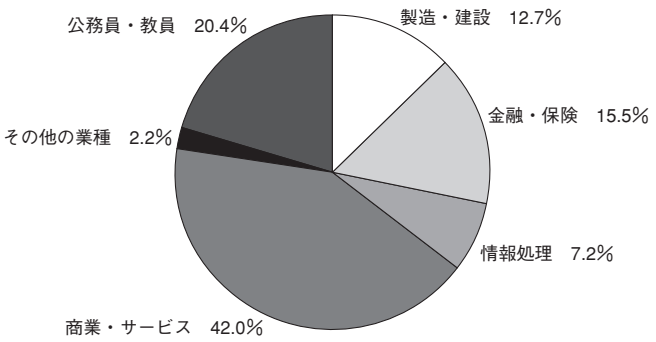
業種別では，「商業・サービス業」が42.0％と最も高く，以下「公務員・教員」20.4％，「金融・保険」15.5％，「製造・建設」12.7％と続きます。昨年度と比べて「金融・保険」，「製造・建設」で減少していますが，「公務員・教員」は8.8％（昨年比）増加しました。この中には臨時や非常勤講師の採用が含まれており，依然として現役での正採用は極めて厳しいといえます。

県内・県外別では，就職者の38.7％が県内（前年比1.1％減），61.3％が県外（前年比1.1％増）でした。

［業種別就職者数］

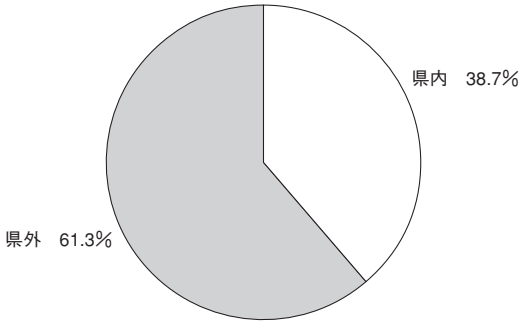
全体

製造・建設	23
金融・保険	28
情報処理	13
商業・サービス	76
その他の業種	4
公務員・教員	37



［県内・県外別就職状況］

	男子	女子	計
就職者	59	122	181
県内	15	55	70
県外	44	67	111



Ⅲ 最近３年間の主な就職先

徳島県	徳島県警，徳島県庁，阿南市役所，小松島市役所，石井町役場，神山町役場，徳島大学，郵便局，徳島市農業協同組合，川島病院，博愛会，四国進学会，トライグループ，ニチイ学館，阿波銀行，愛媛銀行，四国銀行，徳島銀行，大和証券，日本生命保険相互会社，阿波銀カード，“プラン・ドゥ・シィー(ザ・パシフィック・ハーバー)”，ヤマト運輸，第一器械，大久保産業，徳島大水魚市，池田，ジュエリーピコ，ノヴィル（旧：シンクス），ファイブフォックス，オプトピア，四国システム開発，ジャストシステム，ジャストシステムサービス，テック情報，日本システム開発，谷食糧，森永乳業，日亜化学工業，西精工，オートリホーム，メディコム，リブドゥコーポレーション，阿波製紙，環境ビルサービス
香川県	高松国税局，陸上自衛隊，郵便局，百十四銀行，高松天満屋，ビッグモーター，フォワイエグループ，マルヨシセンター，隆祥産業，東洋テックス，ベルモニー平安閣グループ
愛媛県	西条福祉園，フジトラベルサービス，伊予銀行，愛媛銀行，フジ，四国シキシマパン，アスティス
高知県	高知県庁，四国銀行
大阪府	大阪府警，郵便局，ジャルセールス西日本，丸二倉庫，ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング，日本ビジネスアート，フルフィル，マイカル，アグレックス，西日本電信電話，西利，サンスター，ロート製薬，吉野精版印刷所，読売新聞　大阪本社，クマリフト，ダイキン工業，ダイヤトレンド，住友不動産販売，日本総合研究所
兵庫県	兵庫県教育委員会，宍粟市役所，南あわじ市役所，ヤマト運輸，ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング，三菱東京 UFJ 銀行，イング，富永貿易，コベルコシステム，グローリー，トップマン
京都府	京都府教育委員会，王将フードサービス，西利
和歌山県	テレウェーブ，サンコー
愛知県	スガキコシステムズ，興和，グリーンシティケーブルテレビ，アドプランナー
広島県	竹原市役所，広島大学，理研産業，アンデルセン，オンワード樫山，戸田工業
岡山県	岡山市農業協同組合，ザグザグ，天満屋ストア
島根県	島根県庁，郵便局
鳥取県	米子信用金庫
福岡県	Attack コーポレーション，オリエント貿易
東京都	JAL ウェイブ，阪急交通社，扶桑電通，TSUTAYA STORES ホールディングス，キャビン，ダイエー，朝日生命保険相互会社，クレディセゾン，興銀リース，商工組合中央金庫，DTS，ソフトウェア興業，ソフトバンク，ソフトバンクモバイル，デジタル・インフォメーション・テクノロジー，キャノン，アース環境サービス，ニチバン，ジェイ，ブロード，大都販売，デザインオフィス・キャン，フジスタッフ，毎日コミュニケーションズ，マスメディアン
神奈川県	日立ビジネスソリューション
長野県	キッセイ薬品工業

IAS NEWS vol.13　April　2008より転載
19年度資料は，就職支援室より提供

随　想

第22回国民文化祭とくしま2007　野外彫刻展に参加して

武田　亜希子

徳島大学の学生だった頃から金属素材による抽象彫刻を研究テーマに造形表現にとりくんでいます。

昨年秋，国民文化祭がこの徳島で開催されました。私は美術展・彫刻部門に模型作品で応募し，優秀作品10点の中に選ばれ，スケールを大きくして野外に実制作，設置することとなりました。

サブテーマは「水辺のきらめき」「みどりの風」「熱い心」でした。室内で展示される彫刻とは違って，野外彫刻は設置される野外の環境との調和がとても重要です。私は実制作するにあたって，模型作品を作るときにもしたように，再度徳島中央公園を歩きながら，この美しい水辺と豊かな緑をどうやったら生かせるのだろう，テーマに沿った作品にするには，と形のイメージを何度も繰り返しました。

作品が環境にとってどのような影響を与えるか。ということは抽象彫刻を研究テーマにしてからずっと考え続けてきたことでしたが，実際に野外に3メートルを超す作品を設置するというのは初めての経験でした。優秀作品に選ばれたとき，地元徳島で自分の作品をすばらしい形で発表できるというううれしさの反面，自分自身の作品が一体この環境にどのような影響を与えてしまうのか，地元のものでありながら，どれだけこの環境を理解し地元を愛しているかということを試されているような気もしてずいぶん不安と責任を感じたものです。

「宇宙時計」という名をつけた私の作品は，緑地に展示したとき，助任川から吹き上げる風が，鉄板の間をさわやかに通り抜けていくことを意図して制作しました。また，見る人が太陽の動きを感じ「時」の感覚を得られること。「宇宙」のイメージを呼び起こし，明るい未来を想像したり，広々とした宇宙を感じられるような癒しの空間を演出し，徳島の環境を一人でも多くの人に意識してもらえるようにと願いを込めて制作した作品です。

実際展示して，どれだけの人がどのように感じたのか，私にはよく分かりませんが，私自身は満足いく作品になったと思います。環境にはちゃんと調和したと感じます。

国民文化祭の経験は私にとって今後につながるすばらしい経験になりました。評価されたという自信につながっただけでなく，アートで地元に貢献できる可能性を感じられた機会でもありました。この歳で国民文化祭を地元徳島で迎えられ，参加できたことを心からうれしく思うと同時に，今まで私を支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

現在私の作品は国民文化祭の時とは場所をかえ，県庁の対岸のところに永久設置されています。思いの外，この環境にも調和してくれました。設置したとき県の方が何気なく「ここから眉山や長年いても意識したことなかったけど，この作品置いたことで，すごい眉山があること意識して見るなぁ。綺麗やなぁ」と言ってくださいました。その言葉がよい刺激となり，今後のパワーにつながりそうです。

また，この春結婚し，彫刻目の前の結婚式場で式を挙げ，「宇宙時計」の前で記念撮影をとることができました。何にもかえ難い記念となりました。

この彫刻を見るたびいろんな意味で気が引き締まる思いです。

（平成15年人間社会学科国際社会文化研究コース卒）

随　想

世界自然遺産　知床の山に登る

中島　護

３泊４日で，世界自然遺産の知床にある羅臼岳・阿寒国立公園の斜里岳・雌阿寒岳の日本百名山３座の登頂ツアーに参加した。以前から行きたいと思って，県外のツアーに２回も申し込んだのに，70才以上は受付けないと断わられた山である。幸い徳島市内の旅行会社が，年齢制限なしで募集していたので，念願かなって参加することができた。８月末の出発のため，花が少なく天候の心配もあったが，予想に反して絶好の登山日和に恵まれ，見たいと思っていた花にも巡り会え，食べたいと思っていた，山の幸のクロウスゴやガンコウランの実も食べることができて，素晴らしい山歩きができた。

■８月26日（日）　快晴

徳島空港を９時過ぎに出発。機上から富士山や日本アルプスの山並みが見え，霊峰御嶽のすぐ上を飛んで，新千歳空港に降り，乗り継いで女満別空港14時に着く。バスで小清水原生花園へ行き，ハマナスの赤く大きい実や，ナミキソウ・キタノコギリソウなどの花を観察した。再びバスに乗ってカラフトマスを見に行く。浅い川全体に大群がひしめき合って遡上を始めており，川岸から触って遊んだ。観光地のオシンコシンの滝は，恐しいほどの水量が２条に流れ落ちる，ダイナミックな滝であった。

■８月27日（月）　快晴

岩尾別温泉登山口５時半出発。エゾイタヤ・トドマツ・ミズナラの混交林の中を歩く。オホーツク展望台付近から，知床五湖やオホーツク海が見えた。やがて羅臼岳のピークが現われ，愛嬌者のシマリスが出迎えてくれたりした。タカネトウチソウの群落が続いて，私の好きなチシマクモマグサが可愛い花を開き，その間にピンクのエゾツツジが彩りを添えていた。羅臼平からは国後島がすぐ近くに見えた。最後の登りである岩場を慎重に通って標高1660ｍの羅臼岳に着いた。雄大な三ツ峰・サシルイ岳・硫黄岳と知床の山が連なり，左に流氷が押し寄せるオホーツク海。右に国後島。南に明日登る斜里岳など，360度の大展望は，空気が澄みきっていて鮮明に見えた。夏場でこのような景色に巡り会えるのは，めったにないそうである。下山は往路を返り所要10時間。

羅臼平にて

■８月28日（火）　快晴

清岳荘登山口５時半出発。一ノ沢川に沿って歩く。浅く小さな沢を10数ヶ所飛石伝いに渡る。白いダイモンジソウの花が両岸の岩にびっしりと咲いていた。羽衣の滝や万丈の滝など変化に富んだ滝が次々と現われ，エゾミソガワソウやチシマノキンバイソウが咲いていた。稜線の馬ノ背からはエゾイソツツジやウラシマツツジの多い道を登って，祠のあるコブを越えると，溶岩ドームの斜里岳山頂に着いた。眼下にはオホーツク海があり，淡路島ほどの大きな国後島が手の届きそうな近くに見えた。昨日登った羅臼岳が知床連山を従えて悠然と聳え，西方に屈斜路湖が白く光って，阿寒の山の向うに大雪山系の山並まで見渡せた。右下には標津町であろうか，集落に続き野付半島が湾曲してオホーツク海に伸びていた。下りは上二股から新道を通る。熊の好物である大きなコケモモの実が沢山あった。急下降の道を通って９時間で登山口に着いた。

■８月29日（水）　快晴

雌阿寒温泉登山口６時出発。見事なアカエゾマツの美林の中を歩く。４合目からは森林限界となりハイマツが続く。白い花のメアカンフスマの群落を愛でながら登る。虫でも捕食しているのであろうか，頭上に無数のイワツバメが舞っていた。火山礫の急斜面をジグザグに登る。火口外壁に出ると，足元に荒涼とした大火口がポッカリと口を開き，噴煙が音を立てながら昇っていて，強烈な火山のエネルギーを発散していた。青色の不思議な水を湛えた青沼が火口の中にあった。標高1449m雌阿寒岳頂上からの展望は天下一だと思った。すぐ下にもうひとつの小さな火口があって噴煙を上げており，その向こうに

大雲海が広がって雄阿寒岳が浮んでいた。美しい眺めに見とれている間に，切れ目ができて緞帳が横に開いて行くように雲が流れ，阿寒湖が姿を現わした。正に筆舌に尽しがたい絶景である。下山は火口内の真赤な水の赤沼を見たり，端正な姿の阿寒富士を見上げながら急斜面を下る。花を終えたばかりのイワブクロ群落が続き，砂礫の中で健気にもコマクサの大株がピンクの花を風に揺らしていた。５時間で下山口の“阿寒の瞳”と呼ばれ，エメラルドブルーの水のオンネトーに着き，全員無事に日本百名山３座の登頂を終えた。

４日間快晴に恵まれ，それぞれに変化のある個性に富んだ山の景観を満喫し，感動的な最高の山歩きができた。そして，すぐ近くに，国後島や歯舞諸島を見ることができて，北方領土の返還が，１日でも早く実現することを切望する旅にもなった。

雌阿寒岳山頂から

昭和25年徳島師範学校卒

随　想

“知の創造”を目指して

宮田　幸奈

平成20年３月に徳島大学大学院人間・自然環境研究科を修了し，現在，同大学院ヘルスバイオサイエンス研究部博士課程にて研究を続けながら，心理士１年目として社会人学生生活のスタートを切りました。

さて，この度平成20年１月18日に徳島大学長井記念ホールで行われました康楽賞受賞式に出席して参りました。このような名誉ある賞を賜ることができ，大変光栄に存じております。

現在，我々の研究室では，脳神経科学という基礎的な領域を研究しております。大変興味深い分野ではありますが，臨床心理学を志しながら，基礎研究を続ける中で，ふと立ち止まったり，迷いが生じることもありました。

自己の知的好奇心を満たしているだけなのではないか，この研究は果たして社会に貢献することが出来るのか，心に悩みを抱える人々の役に立つのだろうか，そういった疑問が胸を駆け巡り，日々の研究活動が無意味なものに思えてくる日もありました。

しかし，康楽賞授賞式で多くの先生方と出会い，学長の貴重なお言葉を賜る中で，これまで抱いていた迷いを払拭することが出来ました。そして，修士論文発表会で恩師佐野勝徳教授から賜った「臨床心理学発展の裏側には，多くの基礎研究が存在する」というお言葉が胸に蘇りました。

現代の科学的発展の背景には，研究者達の弛まぬ努力と，「知る」ことへの飽くことなき欲求がまぎれもなく存在していたのです。遥か昔の研究者が抱いた素朴な疑問と好奇心が，新しい原理や法則を発見し、知識や技術を体系化し，豊かな社会を構築してきたのです。研究活動において，社会貢献や経済効果は到底無視することは出来ませんが，本来研究や学問が担うべきは，“知の創造”や“知の継承”であり，そういった本質的な部分を決して軽視してはならないと強く感じました。そして，知りたいと思う気持ち，諦めずに真実を追求し続ける姿勢こそが，研究を行う上での真に重要な要素であるということに気づかされ，自身の研究活動に深い意義を見出すことが出来たのです。

今抱く大きな好奇心と小さな発見が，新しい知的資産を生み，希望ある未来を開拓する原動力となることを信じ，今後の研究活動に最大限の努力を傾注していきたいと，思いを新たにしております。

そして何よりも，その小さな発見の背景には，研究者の不断の努力はもとより，それを支えて下さる先生方や仲間達，家族の存在があるのだということを深く心に刻み，いつの日も感謝の気持ちを忘れてはならないと感じるのです。

平成20年人間・自然環境研究科臨床心理学専攻修了

高校・特別支援学校部会

毛利　久康

平成20年５月31日をもって，渭水会会則が改正され，「支部をおくことができる」が削除されました。それを受けて私どもの支部のあり方について，役員会，総会で相談した結果，本年度より本会の名称を「高校支部」から「高校･特別支援学校部会」と改め，組織は維持すること。また，平成９年度より支部「一般の部」に所属されておられました顧問の先輩諸氏に再度本部会への積極的参加を呼びかけていくことを決定いたしました。

会費は，協議の上徴収を決めるとし，今年度も昨年同様集金をしないで，支部廃止後の会員相互の活動助成として新設された「渭水会助成事業」から助成金をいただき，親睦・交流については，参加者負担を原則として実施することとしました。

本会の会員は，昭和50年卒から昭和56年卒までの会員数が一桁台で少ない状況です。今後の活動は，各世代の幅広い参加をお願いいたします。

平成20年度理事会・総会・懇親会

日　時　平成20年８月23日（土）14：30～19：30
場　所　ホテルグランドパレス徳島
講演会　講師：徳島大学総合科学部教授
仙波光明氏
演　題　「方言はなぜ大切なのか」

阿波弁講座などマスコミ等でも有名な仙波先生のお話を拝聴したことに無上の喜びを感じ，こういう機会を与えていただいた同窓会があることに感謝しながらの一時間でした。

日ごろ，生徒に卒業後恥を欠かせないために標準語を押しつけ方言を悪者扱いしている私どもにとって，方言の標準語にない微妙な表現の豊かさを徳島県内を中心に「暑いこと」「雨の降り方」を例にお話しいただきました。参加会員30人足らずでは勿体ないと思ったのが実感です。

来年のこの会へもっと多数の参加を切に願うところです。

昭和49年中学校課程物理学教室卒
阿波西高等学校　TEL 0883―35―3131

平成20年度役員

顧　問	佐藤　衛	他77名				
会　長	田上　吉輝					
副会長	田淵　憲治	宇山　孝人	奥浦　利一			
	毛利　久康					
	加藤　賢治	乾	初枝　冨田　充宏			
	冨樫　敏彦					
幹　事	下浦　忠雄	吉田　千壽	露口　幾也			
事務局	鳴門高等学校　088―685―3219					
	吉野　勝裕	安崎　輝彦	柴崎　絵里			

幼稚園部会

堀江　眞理子

幼稚園部会は平成20年６月28日（土）「阿波の里」において、懇親会を行いました。６月末の蒸し暑い中､また､日々の教育活動でお忙しい中、多くの会員の方が集まってくださいました。

岡本卓夫先生をお迎えしての懇親会。参加会員の多くが岡本先生の指導を受けた者で、懐かしさと先生のお話、歓談を楽しみに顔を見せてくださいました。久しぶりの顔合わせに、皆様の顔もほころび、日頃の忙しさもどこへやら。懐かしさに話が弾む中、岡本先生を迎えて開会の運びとなりました。

会長の挨拶に続き、次回の会長（渭水会改組により、幼稚園部会というのは組織上ではなくなりますが、引き続き幼稚園部会を持とうという会員皆様の意向により）を決めて会食となりました。

次は、遊山箱風の器に盛られた見た目にも美しく、おいしい日本食をいただきながら、会員の皆様の近況報告です。それぞれの職場での現状やご自分の家族の様子や情況に加えて、岡本先生との懐かしい思い出話も加わり、笑いもおこる楽しい話が盛りだくさんでした。会食を終えると、畳敷きの部屋に移動し、落ち着いた雰囲気の中での岡本先生のお話を聞かせていただきました。叙勲を受けられた時に出版された「幸せだった我が人生」という演題で､先生の幼い頃の話に加えて､教職に就くまでの

私たちには思いをはせるにはあまりにもほど遠い、ご苦労やその中に生まれるこぼれ話などを静かに、そして楽しく聞かせていただきました。戦争時のご苦労を聞かせていただくと、現在の平和は、諸先輩のご苦労の上につくられていること、それらを永遠に守り続けていく大切さなどを感じさせてもらい、私たちの使命の大きさを改めて感じさせていただきました。

心豊かになる楽しいひとときを過ごさせていただきました。ありがとうございました。次の会が楽しみです。

昭和46年幼稚園課程卒
鳴門教育大学附属幼稚園

渭水会の改組と助成事業について

渭水会理事長　**濱田　治良**

総合科学部の前身は明治７年（1874年）に開校された師範期成学校に遡り,134年の歴史があります。その間，徳島師範学校，徳島大学学芸学部，教育学部，総合科学部へと変遷して来ました。総合科学部としての卒業生も５千人を超えています。渭水会の組織も平成19年度までは教員養成学部としての長い伝統を反映して，徳島県下の教員で構成されていた「幼稚園支部」,「小学校支部」,「中学校支部」,「高等学校支部」と「関西支部」，これらに属さない会員のための「一般支部」の支部組織で運営してきました。しかし，総合科学部が創立されてから22年が経過し，渭水会の状況も大きく変わり，同窓会の組織の改善が検討されました。その結果，これまでの支部組織を全て解消し，組織を一元化して運営していくことになりました。従って，これからは会員各位と同窓会事務局との密接な交流を切にお願いする次第です。なお,「幼稚園」と「高等学校」の同窓会組織はそれぞれ独自に従来通りの活動を継続することになっております。

この改組に伴い，渭水会助成事業を新たに始めることになりました。その目的は,会員の親睦と互助,母校との更なる連携をはかるために，渭水会会員を主とする研究会・講習会・その他有意義な催し物について経費の一部を補助するものです。下に「渭水会助成事業に関する要項」,「渭水会事業助成金申請書」,「渭水会助成事業報告書」を添付しますので,研究会・講習会・その他有意義な催し物を開催する場合にはこの書式をコピーして，渭水会事務室に申し込んでください。

渭水会助成事業に関する要項

（趣　旨）

第１条　この要項は渭水会における助成事業について必要な事項を定めるものとする。

（目　的）

第２条　この事業の目的は渭水会会員を主とする研究会・講習会・その他有意義な催し物について経費の一部を補助することとする。

（事業の人数）

第３条　この事業の参加人数は10名以上であり、参加人数に対する助成限度は50名を上限とする。

（助成金額）

第４条　１事業につき基礎額を20,000円とし、参加者１人につき1,000円を加算する。ただし、人数割は50,000円を限度とする。

（配当順序と配当回数）

第５条　事業の申込は年度ごとに申請順で受理し、年度内での同一事業の申請回数は１回までとする。

（事業報告書）

第６条　事業申請者は、事業終了後に簡単な報告書を提出しなければならない。

附則　この要項は、平成20年５月31日から施行する。

平成　　年　　月　　日

渭水会事業助成金申請書

徳島大学渭水会　殿

申　請　者
卒業年
氏　名　　印

催し物の名称	
開催年月日	平成　　年　　月　　日（　　）～平成　　年　　月　　日（　　）
会　　場	
参加予定人数	人
事業の目的及び内容	
申請金額	20,000円＋1,000円×参加人数（　　人）＝　　円 （参加人数の限度額は50,000円とする）
事務取扱者	〒（　　－　　） 住所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 電話＿＿＿＿＿＿＿＿　FAX＿＿＿＿＿＿＿＿ e-mail＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（備考）

○この事業は渭水会会員を主とする研究会･講習会･その他有意義な事業について経費の一部を補助するものとする。

○参加人数が10名以上であること。

○１事業につき基礎額20,000円とし、参加者１人につき1,000円を加算する。但し、人数割は50,000円を限度とする。

平成　　年　　月　　日

渭水会助成事業報告書

催し物の名称	
申　請　者	
開催年月日	平成　　年　　月　　日（　）～平成　　年　　月　　日（　）
事業内容	
備　　考	

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報並びに本学ホームページを御覧ください。また，会員の皆様の御意見や御要望をお寄せください。

徳島大学総務部秘書課（Tel：088-656-7021　Fax：088-656-7012）
（E-mail : hibunsyok@jim.tokushima-u.ac.jp　URL : http : //www.tokushima-u.ac.jp）

Ⅰ　学内の状況

1　大学院保健科学教育部保健学専攻博士後期課程を設置

平成20年４月より徳島大学大学院保健科学教育部保健学専攻博士後期課程を開始しました。博士後期課程の教育理念は，今日必要とされる医療に対し，保健学の視点から臨床応用を志向した学問を展開し，実地臨床に役立つ新しい知識の構築と臨床応用を通して，国民の健康増進と疾病の予防，医療，回復支援及び生活支援に資することができる教育・研究者を育成することで，定員は５人です。

博士後期課程には「生涯健康支援学領域」,「医用情報科学領域」及び「医用検査学領域」の３領域,「生涯健康支援看護学分野」,「成育医療学分野」,「医用情報科学分野」および「病態制御保健学分野」の５分野を設けています。

2　青野学長がモンゴル健康科学大学から名誉博士号の学位を授与」

この程，徳島大学青野敏博学長がモンゴル健康科学大学から名誉博士号の学位を授与されました。これは，モンゴル健康科学大学の発展に対する，青野学長や西野瑞穂徳島大学・モンゴル健康科学大学名誉教授ら徳島大学関係者の学術交流の面での多大な貢献を賞賛するものです。

徳島大学とモンゴル健康科学大学は，2005年にそれぞれ医学部と歯学部間で部局間交流協定を締結し，教員や研究者そして学生の交流が一層盛んになった。そして，2007年10月には大学間交流協定を締結し，今年度は薬学部間の学術交流の覚書が締結された。

現在，徳島大学では，モンゴル健康科学大学から14名の留学生を医学部と歯学部の大学院に受け入れているが，今後，薬学部への受入を含め，大学院生の受入をはじめ，研究者の学術交流が益々発展していくことが期待されている。

3　疾患ゲノム研究センターを設置

平成20年４月１日付けで徳島大学に疾患ゲノム研究センターが設置されました。

本研究センターは，徳島大学ゲノム機能研究センターの改組により，生命システムを統合する原理の解明とその破綻による疾患の機序解明を目標に掲げ，他部局との共同研究や人事交流により国際的にインパクトの高い研究を継続して発信するとともに，遺伝子実験施設を強化し，全学の遺伝子組換え実験に関する教育訓練，研究支援及び安全管理の充実を図ります。

Ⅱ　学生関係

1　全学共通教育優秀学生賞の表彰式

徳島大学全学共通教育センターは平成20年４月24日，平成19年度全学共通教育優秀学生賞の表彰式を実施し，全学共通教育成績優秀の19名の学生が選出され表彰状と記念品が授与されました。

全学共通教育優秀学生賞は，初年次学生の全学共通教育の成績優秀者を表彰することによって，全学共通教育における学生の勉学意欲向上のために制定されたもので，今回の表彰が第２回目です。

2　四川省出身の留学生に対し授業料免除及び災害支援金授与式を実施

平成20年５月12日に大地震が起きた中国・四川省出身の留学生全員の被害状況を調査した結果，学部生２名，大学院生５名，研究生２名の計９名が「家が壊れて，危険住宅と認定され，親戚の家で避難している。母親がケガをした。」等の被害を受けていることが判明しました。

徳島大学では，留学生に安心して勉学を続けてもらえるよう，学部生・大学院生の６名には，授業料（前期分）を全額免除とし，授業料免除の対象とならない研究生等の３名には，授業料（前期分）相当額を，徳島大学学生後援会から災害支援金として給付しました。

６月20日（金）に，学長室において，青野敏博学長から９名に対し，授業料（前期分）免除決定通知書及び災害支援金授与式を行われ，青野学長から見舞と励ましの言葉があり，留学生代表から謝辞が述べられました。その後，現在の家族の状況や今後の勉学等について，青野学長ほか大学関係者と懇談しました。

編集後記

渭水会々報第37号をお届けします。ご寄稿された皆様には厚く御礼申し上げます。５月31日に開催された今年度の総会において渭水会支部が廃止され、渭水会は一元的に運営されることになりました。今後は渭水会が、総合科学部の同窓生と教員養成学部の同窓生がともに集える同窓会として、発展して行くことを祈っています。渭水会の改組に伴い、また郵送費の削減を図るために、会報の発行回数がこれまでの年２回から１回に変更されました。そして従来は渭水会支部長を通じて集めていた原稿を渭水会広報係が中心になって集めることになりました。その第１号がこの37号です。今までとは異なる編集になっていることにお気づきのことと思います。

今年度は渭水会役員の改選の年であり、井内孝幸先生が再任され、その挨拶が掲載されています。その中で学部と大学院の改組が計画されていることが紹介されています。その後の進展により、現時点では学部の改組は文部科学省に認められたとのことです。ただし大学院の改組計画は申請中であるとのことです。また、今回は大宅壮一ノンフィクション賞と講談社ノンフィクション賞を受賞された城戸久枝さんから受賞の喜びやそれに纏わるお話を紹介していただきました。受賞、本当におめでとうございます！！総合科学部では今（19）のコラムは石田三千雄先生に執筆していただきました。そこには「ポストモダン」の状況にある現在の私たちの社会の問題点が紹介されています。また、今回は特集として「社会人一年生からのメッセージ」を組んでみました。総合科学部の卒業生の活躍の様子が伺えることと思います。表紙は河崎良行先生の「流速計」で飾らせていただきました。広報係としては、会員の皆様からの色々な内容のご寄稿をお待ちしています。

発行所／徳島大学渭水会・徳島市南常三島町１丁目・徳島大学総合科学部内・電話／FAX088-656-7293
印刷所／徳島県教育印刷株式会社・徳島市東沖洲２丁目1-13・電話088-664-6776
2008年（平成20年）10月31日